

(知念 聖神学生)

逆転勝利の人生の秘訣

(使徒三・一～一六)

テストは毎回〇点、ガキ大将にはいじめられ、家でも怒られっぱなしのさえない男の子に奇跡の出会いが、といえど「ご存じ漫画『ドラえもん』」だ。原作者の藤子・F・不二雄の没後作品は生き続け、特に映画版は三十五年の長きに渡って上映され、シリーズ累計の動員数は一億人を突破したという。アニメと言えばジブリと思いきや、ドラえもんもなかなかである。しかしどうしてドラえもんはこんなに支持されつづけるのだろうか。理由は色々あるだろうが、その一つはドラえもんの「ひみつ道具」がもたらす「逆転」にある。運動もダメ、勉強もダメ、根気もない少年がドラえもんの道具とアドバイスによって変わるのだ。どうしようもない状況からの逆転勝利に人は心ひかれる。そこがいいのだろう。今朝の箇所もそのようなお話である。以下、この生まれつき足のきかない男に起こった逆転劇を見て、何が彼の人生を変えたかを考えたい。

一、自分の力によってではない

この物語は教会が誕生して間もなく、イエスの弟子であるペテロとヨハネが祈るために神殿にやって来たことから始まる。そこにひとりの男がやって来た。しかし彼は自分の足で歩いてきたのではない。彼は人々に「運ばれ」、「置いてもらって」いたのだ(二節)。その目的は宮で礼拝をささげたり、祈ったりするためではない。むしろ「施しを求めたため」であった。つまりそこは彼の仕事場だったのだ。だから彼はペテロに「私たちを見なさい」と言われた時、当然何かもらえろと思つて二人を見た。彼には自らの身体を立たせる力もなく、心を奮い立たせる信仰もなかった。あるものと言えどせいぜい「物乞いをしてでも生きる」という生存への欲求くらいだろう。彼の内側には自分で自分を立たせるようなものは何一つなかったのである。

二、他人の力と信仰によってでもない

「この旦那さまたちは何をくれるのだろう」と思つていた男の耳に飛び込んできたのは彼の予想を裏切ることばであった。「金銀はわたしにない」きつとがっかりしたに違いない。しかし次のことばは彼の予想を遥かに超えるものであった。「ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい」そうしてペテロが彼の手をとると、何

と彼の足は瞬時にいやされた。彼はもはや運ばれて、置かれる「お荷物」ではない。自分で歩けるのだ。彼は踊り、主をほめた。たえた。その光景を見ていた人々はあつげにとられペテロとヨハネにこの男をいやす力があると考えた。しかしペテロはそれを否定した。私たちはよく人の力や信仰を称賛するが、本当の意味で人を立ち上げさせ、神をほめたたえるものに造りかえさせるのは人間業ではないのである。

三、イエスのみ名の力によって

人は自分を救うことが出来ないし、人が人を救う事も出来ない。では一体何がこの男の人生を変えたのだろうか。もう一度ペテロのことばに注目してみよう。まず六節には「ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」とある。また一六節には「そして、このイエスのみ名が、この人を強くしたので」とある。つまりこのモノのように運ばれ、食うための力ネだけを求めるさびしい人生を送っていた彼を変えたのはイエス・キリストのみ名であることがわかる。更に二五節を見るならば、このイエスは神によって復活された、正しいのちの君であることが示されている。人間が最も恐れる「死」、それを越えてよみがえられたイエスの権威あるみ名には人生を逆転させる偉大な力があるのだ。

* * *

小三から中三までの六年間、「彼の」人生は暗かった。いじめにあつていたのだ。ところが高校に入学し状況は一変。彼はボクシングに出会い、それに没頭。ボクシングはどんどん上達し、いじめっ子たちは彼の前から姿を消した。しかし力のついた彼は徐々に非行に走るようになった。大学進学と同時に地元ギャング団を結成、極道の方々と一緒に色々なシゴトをするようになったが、とうとう警察に捕まった。実は彼の母はクリスチャンであり、彼がイエスのみ名の権威によって生まれ変わるよう毎日祈つていた。そんなある日彼は「ライブがあるから」と誘われ教会に行った。集会の間もふてくされていた彼だったが、なぜかその後も教会に通い、「わたしの目にはあなたは高価で尊い、わたしはあなたを愛している(イザヤ四三・四)」のみことばを通してイエス・キリストの愛を知った。彼は変わった。熱心に奉仕し、聖書を読んだ。そして今や人生をイエス・キリストに捧げ、伝道者となるために神学校に通っている。生まれつき足のきかない男も、この青年もイエスの名によって変えられた。さあ今力あるイエスの名を呼ぼう。「主の名を呼ぶ者はみな救われる(使徒二・二一)」のだから。